

「人間は自然に内包され、効率主義の都市に疑問」、「新しい公共のあり方」、さらに「東北とのつながり」などをテーマに第5回大地の芸術祭は29日開幕。9月17日まで、51日間、世界44の国と地域から310組のアーティストが参加し、十日町・津南の旧6市町村エリアに360の作品を展開。3年前の前回は約37万人の来場があり、今回は40万人を超える来場を見込んでいる。開会式で総合プロデューサー・福武總一郎ベネッセ会長は「過度の都市集中により、個性ある地方の文化が壊れていく現代、現代美術を通じて掘り起こし、古いものを生かし、新たなものを生み出す文明をここから発信していく」と芸術祭の意義を表明。炎天下の開会式には名誉実行委員長の泉田知事、代理・大野副知事や駐日オーストラリア大使、駐日フランス大使、前文部科学大臣・森裕子氏など作家を含め約7百人が参加。恒例のアーティスト記念写真を撮り、51日間の

新しい公共、効率主義に疑問

芸術祭開幕、44の国と地域から

式で総合プロデューサー・福武總一郎ベネッセ会長は「過度の都市集中により、個性ある地方の文化が壊れていく現代、現代美術を通じて掘り起こし、古いものを生かし、新たなものを生み出す文明をここから発信していく」と芸術祭の意義を表明。炎天下の開会式には名誉実行委員長の泉田知事、代理・大野副知事や駐日オーストラリア大使、駐日フランス大使、前文部科学大臣・森裕子氏など作家を含め約7百人が参加。恒例のアーティスト記念写真を撮り、51日間の



開会式で作家が一堂に会し恒例の記念撮影（29日、キナーレ前で）

芸術祭を開幕した。今回の新規作品は、29の国と地域から180組が参

加、2百点余の作品を各所で展開。特に、越後妻有体験交流館キナーレが生まれ変わった「越後里山現代美術館」は、巨匠クリスチャ

ン・ホルタンスキーの作品が話題だ。約20丁の古着を使い、会場全体に「心臓の鼓動」が響き、初の野外作品に巨くも関心が集まっている。豪雪、震災、さらに豪雨災害など、越後妻有エリアは度重なる災害を乗り越え、今回の開催を実現。実行委員長・関口十日町市長は「人間は自然に内包される、その生活がこの地にあることを改めて実感している。越後妻有の元気を世界に発信したい」と述べ、さらに「今日は2015年開館に向けたスタートの日である。作品の公募も開始したい」と、第6回開催への積極姿勢を見せた。また、副実行委員長の上村津南町長は「10回を一つの目標と私は考えている。今回はその折り返し。この先の開催には、今回の成果がきっかけ」と、さらに一歩踏み込んだ継続開催への姿勢

復興のシンボル

オーストラリアハウス再建

昨年豪雪で倒壊した松之山・浦田のオーストラリアハウス。芸術祭に合わせて再建が実現。開幕前日の28日、現地で開催式を行い、駐日オーストラリア大使館のブルース・ミラー大使は「世界から訪れるすべての人に開かれていく。訪れるすべての人が集う家。日豪交流の拠点となるよう、皆さんと力を合わせ交流を深めたい」と再建を喜び、地元関口市長、日豪交流協会・マレー・マクレイン会長、地元浦田地区協議会・丸山定一会長らとテープカットし、オープン祝った。再建したハウスは、オー

ストラリアが公募し、建築家・安藤忠雄氏が選考し決定。地元浦田の丸山会長は、「再建できて嬉しい。浦田地区は12集落あるが、震災、豪雪などで人口流失した。この中で再建は復興のシンボルであり、芸術祭を通じて、地元民の意識も変わってきて、女性グループなど自分たちから何かやろうと動き始めている」と同ハウスの再建、さらに芸術祭による浦田地区への効果を生かしている。同ハウスは今後、作品作り作家が宿泊、あるいは地域との交流拠点として活用する方針で、オーストラリア大使館と連携し、回国と越後妻有との交流の架け橋の場になりたい方針だ。



復興のシンボルで再建した「オーストラリアハウス」。駐日大使も来市し開所式（28日）